

になっていました。今後1カ所なり数カ所の新市街地に入っていただくことになりますと、住民の皆様のまちづくりに対するご理解がととても重要です。

山元町では「今回の大きなピンチをまちづくりのチャンスにしたい」、また、「これからの人口減少を見据えた場合、コンパクトシティの理念を取り入れたまちづくりを行っていかねばならない」との思いで取り組んでいます。いずれにしても、新市街地を整備する中で、1日も早く震災前以上のにぎわいを取り戻していきたいと思っています。



新市街地整備地区(新山下駅周辺)／山元町内

市長 コンパクトシティとなりますと、例えばイチゴ農家の方は生産の集約化に伴い、ハウスの造成地と自宅になる場所が離れることになるわけで、権利の変換、あるいは用地買収や分譲が行われることとなります。山元町では事前に地籍調査が進んでいたが故に迅速に事業が進んでいると伺いました。その点についてお話しいただけますか。

齋藤 おっしゃるとおりで、公共事業などを手掛けるときは、用地取得がいかにスムーズにできるかが大きな前提になります。山元町では昭和50年代後半のかなり早い段階から地籍調査に入っており、震災時点で100パーセント終わっていました。一部に古い相続関係の整理などの問題はありましたが、面積での境界争いとか境界確認とい

山元町ふれあい産業祭／平成26年11月23日



うものは一切なく、非常にスムーズに用地買収が進められたことが大きな要因となり、新市街地の整備が順調に進んでいます。

市長 現在、津市の地籍調査は2.67パーセントにとどまっています。このため平成27年度から10年間かけてしっかりと地籍調査を行うプロジェクトを立ち上げているところです。山元町の事例も踏まえ、しっかりと境界を確定しておくことが大事なことだと思えます。

さて、山元町では毎秋ふれあい産業祭が行われます。今年の産業祭には、津市から香良洲のメンバーをはじめ、津市民38人が参加し、復興支援ブースを出店するほか、マグロの解体ショーなどを披露することになっています。

齋藤 山元町ふれあい産業祭は、町の一大イベントで、前葉市長をはじめ、皆さんに復興支援ブースでご支援いただけるとのことで大変感謝しています。

山元町のさらなる復興のために、津市をはじめ応援いただいている全国各地の自治体の皆さんと交流を図り、山元町民との絆を深めたいと考えています。

市長 山元町の復興は、これからさらに続きます。津市としても職員の派遣を来年以降も続け支援してまいります。本日は貴重なお話をいただき、ありがとうございました。

齋藤 こちらこそ、ありがとうございました。